

世の中のこと

小川未明

青空文庫

たいそう 外科的^{げかてきしゆじゆつ}手術^{おそ}を怖^{おそ}ろしがっている、若い^{わか}婦人^{ふじん}がありました。

もし、すこしぐらいの痛^{いた}さを我慢^{がまん}をして、手^{しゆじゆつ}術^{じゆつ}を受^うけるなら、十分^{ぶんけんこう}健康^{こく}を取り返^{かえ}すことができるのを、どうしても、その婦人^{ふじん}は、手^{しゆじゆつ}術^{じゆつ}を受^うけることを欲^{ほつ}しなかつたのです。

季候^{きこう}の変わりめになると、婦人^{ふじん}は、青^{あお}い顔^{かおいろ}色^{いろ}をしていました。

「あなたほどの若^{わか}さで、そんな青^{あお}い顔^{かおいろ}色^{いろ}をなさつてはいけません。早^{はや}く手^{しゆじゆつ}術^{じゆつ}を受^うけになつて、さつぱり病^{びょうき}氣^きを治^{なお}しておしまいなさいまし。」と、知^しっている人^{ひと}は、いいました。

「なんとおつしやつても、私^{わたくし}は、手^{しゆじゆつ}術^{じゆつ}を受^うけるのが怖^{おそ}ろしいのでございます。」と、婦人^{ふじん}は、光^{ひか}るメスを、はさみを考^{かんが}えると、身^みぶるいをしました。

「奥^{おく}さん、T 町^{ティーまち}に有^{ゆう}名^{めい}な先^{せん}生^{せい}がおります。この方^{かた}の手^{しゆじゆつ}術^{じゆつ}なら、まったく安^{あん}心^{しん}して受^うけられます。けつして二度^どとやり直^{なお}しをするようなことはありませんから、ぜひここへいつて見^みておもらいになつたらいかですか。」と、心^{こころ}から、婦人^{ふじん}のことを思^{おも}つて、いつてくれたのでした。さすがに、氣^きの弱^{よわ}い婦人^{ふじん}であつたが、いくらか心が動^{こころうご}きはじ

めました。

「T 町テイーまちのなんとというお医者いしやさままでございますか？」と、教えてくれた人ひとに、ききました。

「M 病院エムびやういんといえ、その界限かいがいで知らぬものがないほど、有名ゆうめいなものです。」と、その人ひとは、答こたえました。

「まあ、そんなにいいお医者いしやさまが、あつたのでございますか？」

婦人ふじんは、なぜ早くそれを知らなかつたろう。そうすれば、こんなに長い間ながあいだ、この病やまいに苦しくるまなくつてもよかつたのにと、急にきゆう、見みもしない、その医者いしやを心こころの中で尊敬そんけいしました。

その後ご、彼女かのじよは、いろいろの人ひとに、T 町テイーまちにある M 病院エムびやういんの話はなしをして、はたして、それはほんとうのことかと、たしかめようとなりました。まれにはまったくその名なを知らぬものもあつたけれど、また中なかには、よくその病びやういん院いんの名なを知しつていて、「その病びやうき氣きにかけては、二人ふたりとない名めいじん人じんだという話はなしです。」と、いうものもあつたので、彼女かのじよは、いよいよ進すすんで、その病びやういん院いんへゆく氣きになつたのであります。

彼女かのじよが、手しゅじゆつ術じゆつを受うけることを覚悟かくごしたと知しつたときに、彼女かのじよの身みを案あんじた周しゆう圍いの人ひとたちは、それは、よく決心けつしんしたといつて、喜よろこんだのでした。

そこから、T町までは、遠かったのであります。乗り物によつても、一日は費やされたのです。氣じようぶな叔母さんをつきそいに頼んで、彼女はT町にゆき、そして、病院の門をくぐつたのでした。

患者の控え室は、たくさんの人で、いっぱいでした。左右にすわっている人々のよすをきくと、いずれも彼女と同じ病氣であるらしいので、いまさら、その名医ということが感ぜられたのであります。

そのうちに、看護婦が入つて、彼女のかたわらにきました。

「あなたですか、院長さんに見てもらいたいとおっしゃられたのは？」と、看護婦はたずねました。

「さようでございます。」と、彼女は、答えました。

「お氣の毒ですが、院長さんは、ただいま、ご旅行中なんですが……。」

こう看護婦がいつたとき、若い婦人の顔色は、落胆と失望のために、変わりました。彼女は、どうしていいかわからなかつたからです。しばらく黙つて考えていました。「代診では、いけませんか。」と、看護婦が、問いました。

彼女は、あれほど、迷つた末に、ようやく決心をしてきたのを、いまさら代診に

みてもらうまでもないと、いくぶん腹立たしくなりました。

「叔母さん、私、また、くることにしますわ。」と行って、彼女は、立ち上がりました。「せっかく、きましたのに……。」と、叔母さんも彼女の後方に従うよりしかたがなかったのです。

彼女は、門を出るときに、どうして、みんながあのようになり、代診で満足しているのだろうか？ 院長さんには、めつたにみてもらえないからかしらんとさえ思いました。そして、彼女はむなしく、家にもどってしまったのです。その後ふたたび、彼女が、出かけるはずもなかったから、病気はついに治らずにしまいました。

ところが、その後になってきくと、M病院では、院長よりも代診のほうが、はるかに手術が上手なので、院長には、時に仕損じはあるが、代診に限ってけつして仕損じがないということでした。

「世の中のことって、みんなこうしたものね。」と、さすがに、これをきいたとき、婦人は、歎息をつきました。いつか代診より、院長が偉いと思つた、自分の愚かしさを悟つたのです。

青空文庫情報

底本：「定本小川未明童話全集 10」講談社

1977（昭和52）年8月10日第1刷発行

1983（昭和58）年1月19日第6刷発行

※表題は底本では、「世《よ》の中《なか》のこと」となっています。

入力：特定非営利活動法人はるかぜ

校正：仙酔ゑびす

2012年7月16日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

世の中のこと

小川未明

2020年 7月18日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>